

令和5年度機構評議会で委員から寄せられた主要な指摘事項とそれに対する対応方針

	項目	指摘事項	対応方針
1	施設	インフラの老朽化について機構で計画的な更新や計画を持っているか。地方の林業系研究機関などからの情報はるか？	森林総合研究所においては、中長期計画の策定に合わせて施設整備に関する5カ年の計画を策定し、研究施設等の計画的な整備を進めている。地方の情報については、全国を6つのブロックに分けて定期的な会議を開催するなどして、情報の収集に努めている。
2	広報	機構で発行している冊子は読みやすく分かりやすい。小学生向けタブレットなどにアプリとして入っていたら、子供の頃からこういう情報に触れられる。アプリ等との連携は面白いのではないか。	社会の変化に合わせて広報の手段も変わるものと考えており広報アプリも選択肢の一つとして検討しているが、開発と維持にかかる費用が非常に大きく実現できていない。子供たちに向けた広報としては広報誌の配布先の開拓を引き続き進めるとともに、今後、YouTubeの森林総研チャンネルにおいてキッズ向け動画コンテンツの充実を検討する。
3	一般管理費	光熱費等の高騰などに関して、国立科学博物館のようにクラウドファンディングなどはどうか。所内施設を案内するなど支援のお礼もあると満足していただけるのではないか。	光熱費等の高騰は機構運営、特に研究施設の運営において非常に重要な課題となっている。クラウドファンディングは、「資金を調達したい人がプロジェクトを公開し、不特定多数が支援を行うシステム」とされており、永続的に支出される運営費に充てる目的ではなく、何らかのプロジェクト的な取組が必要とされるものと認識している。今後とも、光熱費等については研究予算の確保や外部資金等の獲得に努めつつ、クラウドファンディングに合致する何らかのプロジェクトが仕組めないか情報収集を行ってまいりたい。
4	研究課題の設定	花粉症対策のことで、ヒノキの花粉症の方もいる。注目がスギにばかりいってしまっている。無花粉ヒノキの研究についても育種センターがもっと発信しても良いと思う。	ヒノキ花粉症への対策として、成長等の形質に優れた精英樹の中から花粉量が極めて少ないヒノキ品種をすでに開発している。なお、無花粉ヒノキについては、まだ成果は得られていないが、県とも連携しながら無花粉ヒノキの探索などの調査・研究を進めているところであり、成果が得られれば積極的に発信していきたい。
5	研究課題の設定	長期戦略にはどういうことがあるのか。それと関係して、研究のキーワードで気候変動がまた大きくなってきたことに関して、最初は温室効果ガスの吸収が主なテーマだったが、今の課題は何か。	気候変動の影響が避けられない中、適応に関する研究の重要性が増している。 一方、緩和については2050年ネットゼロ社会実現に向け、伐採木材の建築物利用等による長期的な貯蔵効果を含めた森林全体の温室効果ガス吸収量の正確な評価や気候変動対策と生物多様性との関係に関する研究を進めている。
6	森林保険業務	今後は気候変動で火災も風害も雪害も必ず増えていくだろうと思う。そういう意味でも保険自体に注目が集まるといいと思う。	令和3年4月に作成した「森林保険普及・加入促進戦略」に基づき、造林補助事業実施箇所の新規加入や、既契約者への継続加入、森林経営管理制度における森林保険の活用等を働きかけるとともに、森林保険の重要性等をウェブサイト、Facebook、広報誌等を通じて積極的に発信し、国民各層の認知度向上及び理解の醸成等を行っている。引き続き、新しいキャラクターの活用や動画の作成等を通じ、適切に普及・加入促進対策を推進して参りたい。